

500 シリーズのエラーを検出するためのキープアライブ スクリプトの例

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[サンプル スクリプト](#)

[関連情報](#)

概要

このスクリプトは、テストした Web ページに対して 500 シリーズのエラーがサービスから返されると失敗します。このドキュメントでは、スクリプト キープアライブの実装についても説明します。このスクリプティング方法は、リモート アクセス サーバ (RAS) のダイヤルアップ クライアント、ターミナル プログラム、および一般的なスクリプト ユーティリティに存在する機能と密接に関連しています。この機能は、WebNS の豊富なスクリプト言語を使用します。

簡単なソケット Application Program Interface (API) と (接続して下さい/接続解除/送信/受信)、スクリプト キープアライブ与えるかユーザに自身のプロトコルを合わせる機能をまたはサービスの信頼できる ALIVE DOWN 提供するために書きますステップの自身のシーケンスを完了して下さい。スクリプト キープアライブ 機能性なしで、FTP に現在、HTTP、Internet Control Message Protocol (ICMP) 制限されます。(ICMP)、および TCP。しかしスクリプト キープアライブを使うとあなた自身のスクリプトが書かれているとき現在のプロトコルの上に残ることができません。たとえば、WebNS の要件なしで Point of Presence 3 に (POP3) KeepAlive型 POP3 を構築するためにサーバを接続するようにとりわけある調子を与えられるスクリプトを開発できます。この機能は顧客が特定の必要条件に適するために自身のカスタム キープアライブを作成することを可能にします。これが Content Services Switch (CSS) のコンポーネントであるが、カスタムスクリプトは Cisco Technical Assistance Center (Cisco TAC) によってサポートされません。

この資料のスクリプト キープアライブは TAC によって公式のサポートを提供されないし、テストされ、あなた自身の思慮分別で利用可能です。

前提条件

要件

WebNS リッチ スクリプト言語の習熟度。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- WebNS バージョン 3.x 以上
- CSS 11x00 シリーズ

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

サンプル スクリプト

ここに示されているようにスクリプトが 500 シリーズ エラーを検出するのに使用することができます:

```
!--- No echo. !!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!! ! !--- ap-kal-  
http-response !--- Script exits dying if the service returns any 500 series !--- error for the  
tested Web page.(If FromResp is 500 and ToResp is 599). !--- Note: This script can be used for  
any range of response codes. ! !--- Last Tested: KGS 12/17/01 !  
!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!! ! if ${ARGS}[#] "NEQ" "4"  
echo "Usage: ap-kal-http-response \'Service WebPage FromResp ToResp\'" exit script 1 endbranch  
if ${ARGS}[3] "GT" "${ARGS}[4]" echo "ap-kal-http-response: FromResp \'${ARGS}[3]\' must be less  
than or equal to ToResp \'${ARGS}[4]\'." exit script 1 endbranch !--- Query the service for the  
page. llama icp probe service ${ARGS}[1] "${ARGS}[2]" | grep -u "Response" set ResponseCode  
"${UGREP}[3]" exit !--- If the response is a 50x, send a signal to the service to die. if  
${ResponseCode} "GTEQ" "${ARGS}[3]" if ${ResponseCode} "LTEQ" "${ARGS}[4]" set EXIT_MSG "Service  
${ARGS}[1] returned the error code [${ResponseCode}]." exit script 1 endbranch endbranch exit  
script 0
```

関連情報

- [CSS 11000 シリーズ コンテント サービス スイッチのハードウェア サポート \(英語\)](#)
- [CSS 11500](#)
- [CSS11500 \(登録ユーザのみ\) のためのソフトウェアダウンロード](#)
- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)